

## 叡智のフロンティア部会における論点と議論の方向性について

2012年3月8日

叡智部会 荻部 直

## 1. これまでの審議状況

第1回 2月8日 今後の進め方、意見交換

第2回 2月20日 隠岐部会長代理、金森委員、坂田委員、黛委員からの意見発表、意見交換

第3回 3月5日 金子委員、鈴木委員、高木委員、原委員からの意見発表、意見交換

## 2. 部会における主な論点

- ① グローバルな知や文化とローカルな知や文化の二つをどのように組み合わせ、いかにして新しい価値を生み出し、日本のオリジナルな文化として世界に発信していくか。
- グローバル化の流れの中で、オンリーワンの知や文化を生み出し、地域の問題解決に貢献する大学や、社会の中で尊厳を持って生きていくために必要な資源としての教育の保証をいかにして充実させていくか。
  - 柔軟で自由度、流動性のある社会のシステムをいかに作っていくのか。文化の豊かさをもたらす社会的排除のない開放的な社会をいかにしてつくっていくか。
  - 可能性のある人間が会える場、いわば知の運動会のような場を作って多様な人材がぶつかり合い、知のシャッフルを起こしていくことが必要。人々の才能を無駄にしないために流動的で柔軟な、自由度の高い社会が必要。
  - 様々な知の可能性を、閉じ込めため込むのではなく、共有化して活用するために、情報を編集して可視化できる人材が必要。そのような作業の核となる人材を養成するとともに、社会が編集と交流の場を共有することが必要。
- ② 変化するもの、変化すべきもの、変化しにくいもの、あるいは変化させてはいけないもの、変えられないもの。その二つをどのように組み合わせていくのか。
- 日本語や日本の文化に誇りを持ち、どのようにして守り育てていくのか。日本の生活の中で受け継がれてきた文化や知恵、また礼節や規範、美意識といった叡智をいかにして継承、発展させていくか。協調性や公共精神の高い社会をいかに維持していくか。
  - 経済的な豊かさと日本の文化を守るということは矛盾しない。また、文化や芸術と経済とは矛盾し対立するものとの考え方ではなく、両者を結びつけて考えていくことも重要。
  - グローバルな人材を育成するために大学などは積極的に海外との交流を進めるなどの改革が必要であると同時に、我が国の強みである高い基礎学力を維持するために困難を抱える子供に対する経済的支援や学習支援を充実させることが重要。
- ③ データ化できる、あるいは人工知能に転用できるような知と、そのような処理になじまない人間的な、身体に組み込まれたような知。データ化できるような知と、そ

ういうことができない形にならない知をどのように組み合わせるのか。

- 身体的叡智は社会の中でのコミュニケーションに欠かせないもの。教育などに取り入れていくとともに、国際的な価値として発信していくことが重要。
- DNAの二重らせん構造が発見されたときには年間100本ほどの関係論文が出ていたが、現在は約10万本の論文が出ている。このような知の爆発ともいえる状況の中で知識を社会へとつなげるために、知識を社会の問題解決につなげるリーダーとなる人材の育成、21世紀型の手法の導入、大胆な社会実験などが必要。
- 情報化の一層の進展によりデジタル化されたあらゆる情報が国境を越えていくことになる。その中ではデジタル化できないものしか日本に残らないが、これこそが一番大事な文化ではないか。日本は、東洋の歴史ある文化国家として、文化の輸出国になるべきである。

### 3. 今後の議論の方向性

さらに委員から意見を聴取して論点を整理し、中間報告に向けた議論に移っていくこととする。

### 4. 今後の予定

- 第4回 3月23日 中村委員、松尾委員、山崎委員からの意見発表、意見交換  
中間報告の骨子取りまとめ方針について議論
- 第5回 4月9日 中間報告に向けた議論
- 第6回以降～ 中間報告とりまとめ